

【菊の里地区】菊水元町白菊町内会 『サロンきらく』～支え合いの居場所～

白菊会館で開かれている『サロンきらく』は、菊水元町白菊町内会が実施主体として、高齢者が孤立せず、お互いが支え合い、安息できる居場所を目指し、平成28年度に開設された後、健康で楽しく過ごせる集いの場、地域の見守りの起点の役割を担っています。



4月21日の訪問時は、第2地域包括支援センターによる介護保険の講話、介護予防センター菊の里による棒体操・レクを通じ、楽しく交流されている姿を拝見させていただきました。タオルリレー、脳トレの漢字クイズなどで盛り上がり、参加者同士、気心の知れた様子で、和やかに春のひとときを過ごされており、終了後も、言葉を交わす場面も多く、さりげない“つながり”の大切さを垣間見ることができました。

5月にはフラダンスがあったり、月に1回(第3火曜日午前10時から)、開催内容なども工夫しながら取り組まれており、開始から約10年の歩み続ける貴重な居場所となっています。



4月から、第2エリア(東札幌、菊水、菊の里、北白石地区)は、阿部が担当させていただきます。このような、つながりの生まれる素敵な場や仕組みが増え、地域で温かな支え合いが広まっていくように、生活支援コーディネーターの立場から、応援させていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

【東白石地区】本郷町内会 「住民同士の支え合いに向けた話し合い」



本郷町内会(東白石地区)では、見守り活動の活性化に向けて、意欲的に取り組んできました。町内会福祉部主導のボランティア組織(暮らし応援隊)を結成するほか、月1回定期的に町内会通信も発行し、困りごとの把握にも努めています。

この度、福祉マップも有効活用しながら、更なる支え合いの活性化を図るため先日(5/18)話し合い(協議体)を開催しました。

話し合いの場では、個人情報保護を尊重した上での積極的な活動展開をいかに進めるべきかなど、活発な意見交換がなされました。結果、いくつかの方向性が決まりました。○これまでの福祉部主導から町内会全体での取り組みへとシフトチェンジ
○福祉マップの有効活用により対象世帯の状況把握・共通認識を進める
○まずは、困りごと(福祉課題)把握のための効果的周知チラシ作成を検討する
以上のような共通認識が図られました。



今年4月から、白石区第3エリア(東白石・白石東の2地区)生活支援コーディネーターの担当となりました石川と申します。

生活支援コーディネーターは、地域の困りごとと、その解決に向けてできること(人・企業・団体など)をつなぐ役割をしています。

今後、白石区の皆様にはお世話になります。支え合いの仕組みづくりについて一緒に考えていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします！